

2009 年度わが国貿易収支、経常収支の見通し

2008 年 12 月 5 日 (金)
社団法人 日本貿易会

・ 要 旨

1. 商品別貿易の見通し(通関ベース)

● 2008 年度 ~ 輸入は年度上半期の資源・エネルギー高で過去最高

輸出総額は前年度比 2.3%減の 83 兆 1,220 億円と見込まれる。輸出数量は、米欧向けを中心とした自動車・電算機類等の不調で同 0.2%減と 01 年度以来の減少となる見込みである。輸出価格は円高による円建て価格低下を主因に同 2.1%低下するとみている。

輸入総額は前年度比 2.7%増の 76 兆 9,430 億円と見込む。これはエネルギー・金属資源・穀物など一次産品価格が前年度比で大幅に上昇し、輸入価格が同 4.2%高と上昇することによる。ただし、国内需要の伸び悩みから輸入数量は同 1.4%減と 07 年度に続き減少する見込みである。

● 2009 年度 ~ 輸出はさらに減少、輸入は価格下落で大幅減

輸出総額は 77 兆 5,600 億円で前年度比 6.7%減と予想される。輸出数量は、世界経済の大幅減速の影響により伸び率が 08 年度を大幅に下回る同 4.1%減となり、輸出価格も円高の影響を受け同 2.7%低下するだろう。

輸入総額は、エネルギー・金属資源・食料の価格の大幅下落と円高進行の影響で輸入価格が大きく下がることにより、前年度比 17.0%減の 63 兆 8,980 億円と 3 年ぶりの低水準となることが予想される。輸入数量も国内需要の低迷により同 2.7%減と 3 年連続の減少となるだろう。

2. 経常収支の見通し

● 2008 年度 ~ 輸出減・輸入増により経常収支黒字は 7 年ぶりに縮小

経常収支黒字は、20 兆 4,300 億円と 7 年ぶりに黒字幅を縮小する見込みである。

貿易収支黒字は、輸出金額が減少に転じる中で、輸入金額が増加することから、前年度比 3 兆 7,760 億円減の 7 兆 9,100 億円となる見込みである。また、所得収支黒字は、海外金利の低下と円高による円ベース受け取り金額の減少により、07 年度比で 9,240 億円減の 15 兆 8,300 億円となる見込みである。一方、サービス収支の赤字は、輸送収支や旅行収支の赤字幅縮小により、1 兆 9,900 億円と 07 年度から縮小する見込みである。

● 2009 年度 ~ 経常収支黒字は輸入金額の大幅減を背景に過去最高の 27 兆円に

経常収支黒字は 26 兆 9,800 億円となり、08 年度の水準から 6 兆円以上の増加となる見通しである。これは、輸出が減少するものの、輸入がエネルギー・金属資源・食料価格の下落で輸出の減少幅を大幅に上回る減少となることによる。一方、サービス収支赤字は、円高による旅行収支赤字の拡大等の影響により赤字が小幅拡大する見通し。所得収支は、海外金利低下と円高にともなう受け取りの減少により黒字幅がやや縮小すると予想している。

お問い合わせ :

社団法人日本貿易会 調査グループ

〒105-6106 港区浜松町 2-4-1 世界貿易センタービル 6F

Tel: 03(3435)5959 Fax: 03(3435)5979 e-mail: iar@jftc.or.jp

<http://www.jftc.or.jp> …HPより全文ご入手いただけます。

． 総 括 表

【 通 関 貿 易 】

項 目	2007年度 実績		2008年度 見込み		2009年度 見通し	
	(10億円)	対前年度比 伸び率	(10億円)	対前年度比 伸び率	(10億円)	対前年度比 伸び率
輸 出	85,116	9.9%	83,122	2.3%	77,560	6.7%
数量要因		7.7%		0.2%		4.1%
価格要因		2.0%		2.1%		2.7%
輸 入	74,904	9.4%	76,943	2.7%	63,898	17.0%
数量要因		3.1%		1.4%		2.7%
価格要因		13.0%		4.2%		14.7%

【 経 常 収 支 】

項 目	2007年度 実績		2008年度 見込み		2009年度 見通し	
	(10億円)	対前年度比 増減、伸び率	(10億円)	対前年度比 増減、伸び率	(10億円)	対前年度比 増減、伸び率
貿易・サービス収支	9,090	904	5,920	3,170	12,660	6,740
貿易収支	11,686	1,202	7,910	3,776	14,680	6,770
輸 出	80,945	9.9%	79,050	2.3%	73,760	6.7%
輸 入	69,258	9.6%	71,140	2.7%	59,080	17.0%
サービス収支	2,596	298	1,990	606	2,020	30
所得収支	16,754	2,506	15,830	924	15,660	170
経常移転収支	1,300	20	1,320	20	1,340	20
経常収支	24,544	3,391	20,430	4,114	26,980	6,550

商品別貿易の見通し(通関ベース)

1. 輸 出

2008 年度

世界経済の減速が鮮明となり、日本の輸出は減少に転じた。海外需要の不振から当年度の輸出数量は01年度以来の前年度比マイナスとなる見込みである。また輸出価格についても円高の進行により下落するとみられる。商品別には、自動車が米欧向けの落ち込みの影響で減少するほか、電気機器でも半導体等電子部品などが減少する見込みである。船舶は受注ベースでは減少傾向にあるものの通関ベースでは増加が続くだろう。原料別製品では、鉄鋼が上半期に大幅に増加し、下半期には減少に転じるが、通期の輸出金額は同 7.3%の増加となる見込みである。

2009 年度

先進国における景気後退と新興国・資源国経済の大幅減速で、海外需要は大幅に落ち込むだろう。円高による輸出価格の低下も続くだろう。この結果、日本の輸出は前年度比 6.7%減と 01 年度以来の大幅な落ち込みとなる。商品別では、ほぼすべての品目で減少となる見通しである。輸送用機器では、自動車が米欧市場向けのみならずほぼすべての地域向けに大幅に減少すると予想される。一般機械、電気機器も世界経済の減速にともなう輸出数量の減少と単価の下落により減少するだろう。原料別製品では、鉄鋼が世界的な需要の冷え込みを背景に前年度比 2 割以上の大幅な減少となる見通しである。

2. 輸 入

2008 年度

輸入は鉱工業生産の不振にともなう製造業におけるエネルギー・原料需要の減少や製品輸入の不調で、輸入数量の伸び率が前年度に続きマイナスとなる見込みである。一方、輸入価格は、上半期に一次産品価格の大幅な上昇があり、その後の下落傾向にもかかわらず、年度通期では前年度比プラスとなるだろう。この結果、輸入金額は前年度比 2.7%増の 76 兆 9,430 億円となり、過去最高となる見込みである。商品別に見ると、鉱物性燃料は価格要因から輸入金額は大幅増となる見込みである。原料別製品については、鉄鋼・非鉄金属等の下半期における価格の大幅下落の影響により、減少する見込みである。機械機器やその他製品の輸入は国内需要の不調を受けて減少するだろう。

2009 年度

日本国内では設備投資や個人消費が今後さらに落ち込むとみられ、輸入数量の減少が続く見通しである。また、輸入価格についても、国際商品市況の下落に加えて、円高の影響もあり大幅な低下が予想される。この結果、輸入金額は前年度比 17.0%減と大幅な落ち込みを示すだろう。商品別に見ても多くの項目で数量・価格共にマイナスとなるだろう。鉱物性燃料は、原油を中心としたエネルギー価格の大幅な下落により大幅に減少する見通しである。原料品も、価格の下落と輸入数量の減少により大幅減となる見通しである。また、一般機械は、電算機類の輸入単価の低下や、原動機・半導体等製造装置の需要不調により減少が続くと予想される。輸送用機器については、高級輸入車が減少するが、引き渡しの遅れていた新型航空機が輸入されることから全体としては前年度比で小幅に増加する見通しである。

経常収支の見通し

2008年度

輸出金額が減少に転じる一方で輸入金額の増加が続くことから、貿易収支黒字は、前年度比で大幅に減少し、7兆9,100億円となる見込みである。サービス収支は、旅行収支の受け取り増を主因に赤字が縮小する見込みである。所得収支の黒字は、海外金利の低下と円高による円ベース受け取り金額の減少により、6年ぶりに縮小する見込みである。この結果、経常収支黒字は07年度の24兆5,444億円から4兆1,144億円減少し、20兆4,300億円となる見込みである。

2009年度

09年度の貿易収支黒字は、世界経済の減速を主因に輸出が前年度比6.7%減と減少幅を拡大させる一方、エネルギー・金属資源・食料の価格下落や円高の影響により輸入が同17.0%減と輸出の減少幅を大きく上回る減少を示すことから、差し引きで14兆6,800億円と98年度に次ぐ過去2番目の水準を記録する可能性が高い。サービス収支赤字は、円高の影響で訪日外国人旅行者数が伸び悩み、旅行収支赤字の拡大を招く結果となり、08年度に比較して赤字幅が拡大する見通しである。所得収支は、海外金利の低下と円高による円ベース受け取り金額の減少により、黒字幅がやや縮小する見通しである。結果として、経常収支黒字は26兆9,800億円に達し、過去最大となる可能性が高い。

前提条件

【 前 提 条 件 】

項 目	2007年 実績	2008年 見込み	2009年 見通し
世界貿易 (暦年)	6.4 %	4.9 %	4.1 %
世界経済 (暦年・実質)	5.0 %	3.7 %	2.2 %
米国経済 "	2.0 %	1.4 %	0.7 %
EU経済 "	3.1 %	1.5 %	0.2 %
アジア経済 "	9.3 %	7.6 %	6.3 %
日本経済 "	2.1 %	0.5 %	0.2 %
円相場 (年度、対ドル)	114 円	101 円	95 円
原油入着価格 (年度、ドル/バレル)	78 ドル	97 ドル	70 ドル

(注1) 円相場、原油入着価格以外の数字はIMF "World Economic Outlook 2008 (10月/11月版)"に基づく。

(注2) アジアはIMF定義による「アジア途上国(25)」+「NIES(4)」の29ヵ国ベースに調整。

(注3) 円相場、並びに原油価格は今回の貿易見通し作成の前提条件として、直近の実績を参考に設定したものであり、予想ではない。

以上